



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「天に坐するもの笑ひたまはん」

聖書(詩編第2編4節)

牧師 河合裕志

表記の言葉は次の言葉の文語訳。「天を王座とする方は笑い」。明治時代(1887年)に初めて翻訳出版された文語による旧新約聖書は今からするとわかりにくい箇所も少なくないけれど、簡潔で力強い言葉も多く見られる。表記の言葉もその一つ。

「天に坐するもの」とは天地の創造者である神のこと。この神が笑われるという。聖書には「笑う」という言葉がない訳ではないけれど「神が笑う」というのはめずらしい。他にやはり詩編37編13節に「主(神)は笑われる」と出て来る。

ところで神はなんだって笑うのか。それは「なにゆえ、国々は騒ぎ立ち 人々はむなしく声をあげるのか」ということで笑うということ。更に「なにゆえ、地上の王は構え、支配者は結束して主に逆らい、主の油注がれた方に逆らうのか」といって笑う、と(以上1節2節)。ここで「油注がれた方」とは元のヘブライ語で「メシア」、ここでは「王」のことを指している。これを後世の初代教会のクリスチャン達は「イエス」を預言した言葉だとした。だから「イエス・キリスト」と言われる。キリストとはメシアをギリシャ語に訳したのもの。真実のメシア=油注がれた者=救世主はイエスだとクリスチャンは見なした。

国々は騒ぎ立っている、人々はむなしく、

無駄な声をあげている、主(神)に逆らい、主の油注がれた方(イエス)に逆らっている、そこで神は笑う。この笑いは嘲り笑うといった響き。人間の分際でなんと馬鹿なことを考えているのか、企てているのか、ちゃんちゃらおかしい、といった笑い。

これを今日の情勢に置き換えて考えてみるとこういうことが言えないだろうか。アメリカとか中国とかロシアといった国々。覇権国家を目指す。武力、経済力をもって世界の覇者たらんとしている。北朝鮮も負けまいとミサイル開発に突き進む。日本も専守防衛から敵地攻撃能力まで備えなければ、といった人も出ている。こういった国々にとどまらず全て軍事増強に向う国々は神に、またイエスに逆らっているのではないか。

「地には平和」(ルカ2・14)これが神の心。「平和を実現する人々は幸い」(マタイ5・9)これがイエスの心。国々が武力によらず話し合いで解決をはかる。人々が平和に暮らす。この時天に坐する者、神とイエスは心より良かった良かったと、ニコニコと「笑ひたまはん」。こんな笑いが天にこだますることを。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時~7時